

チョコマーブル：編集後記にかえて

孟母三遷の教えでは、孟子一家学校の前に居を定めて孟子大いに勉学に励む、となるのであるが、なるほど我が生家も小学校の目の前にあった。当時、父も母も朝が早かったので弟もほくも祖父母に朝ご飯のお世話になるという生活であった。祖父母に甘やかされて8時15分の予鈴で目覚め、25分の二度目の予鈴で家を飛び出すという日々であった。もちろん、30分までに校門を通過して教室に着席の決まりだが、最後の関門がチョコマーブルであった。校門に立つ生徒指導の教員チョコマーブルはギリギリに駆けつけるほくに竹の棒を振りながら、こらまたお前か！少しでも30分に遅れるとしばらく校門に立たされ、担任の先生が心配して迎えにくる。だから、弟もほくもチョコマーブルが嫌いであった。チョコマーブルの名前は忘れてしまったかあるいはいはいちども聞いたことがない。薄くなりかけた後ろ頭の形がチョコマーブルに似ているとのことで生徒はみな、先生を『チョコマーブル』と呼んでいた。

小学3年の給食当番で友人4、5名と調理室に給食を取りに行き、体育館を抜け教室へ戻るとき、ボソッ！という音がして見上げると高い体育館の天井に『悪ガキ』がぶらさがっていた。『悪ガキ』は5年生の先輩で、いつも女の子のスカートめくりをしたり、カエルの死骸を女の子のセーラー服の首筋から中に落としたりして時を過ごしていた強者で、みんなから悪ガキと呼ばれていた。その日は、体育館2階のピアノ室の真上の天井口から体育館屋根裏に侵入して探検をしていたところ、老朽化した天井が抜けたのである。ふつうの子ならそのまま床に真っ逆さまに転落するところ、さすが運動神経抜群の悪ガキ、天井に手をかけて残った。われわれの次に体育館を通りかかったのが当時生徒副会長をしていた6年生で、とった行為がすばらしい。ステージ下の体操用のマットを悪ガキの真下に積み重ねるようにわれわれに命じた。そのあとほくが職員室にいて担任の白田先生に、先生たいへんです。体育館には生徒たちが集まり始めた。みなが悪ガキと体育館の天井の穴を見つめていた。しばらくして、悪ガキの手を上から何か手繰り寄せるもう一本の手がのぞき始めた。誰かが天井裏に登ったに違いない。ほくの友人が隣で、あ、チョコマーブルだ！と叫んだ。ほくもそこを見つめて、チョコマーブル型の頭のシルエットを見た。数人の先生方が、布団を抱えて体育館入口に来た時に、悪ガキは力つきて床に敷かれたマットに落下した。

翌日、クラスで悪ガキは無事であったこと、脳波にも異常はなかったことを聞かされた。転校の日が近づいていた。算数の楽しさをすばらしい授業で教えてくれた白田良子先生ともお別れである。山口県立富田東小学校最後の日、ほくはわざと2、3分家を遅く出た。校門でチョコマーブル！またお前か！ほくはチョコマーブルにお別れをする心を決めていた。今度転校するんだ、マーブル。本当か、これでこの棒も擦り減らなくなって清々するな！まあ、元気でやれ！チョコマーブルも元気で！最後ににこっとチョコマーブルが微笑んでくれた。

教員生活も30年を超え残り少なくなり始めて教育とは何かと考え、あるいはひとに問われるようになった。『あの日のチョコマーブルの手』といえは答えとして遠くはない。
(山田義博（藍野大学中央図書館長）令和5年2月7日)

藍野大学紀要 第35巻

令和5年8月31日

編集兼発行者 学校法人 藍野大学 藍野大学
〒567-0012
大阪府茨木市東太田4-5-4
電話 (072) 627-1711(代)

印 刷 明文舎印刷株式会社
〒601-8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話 (075) 681-2741